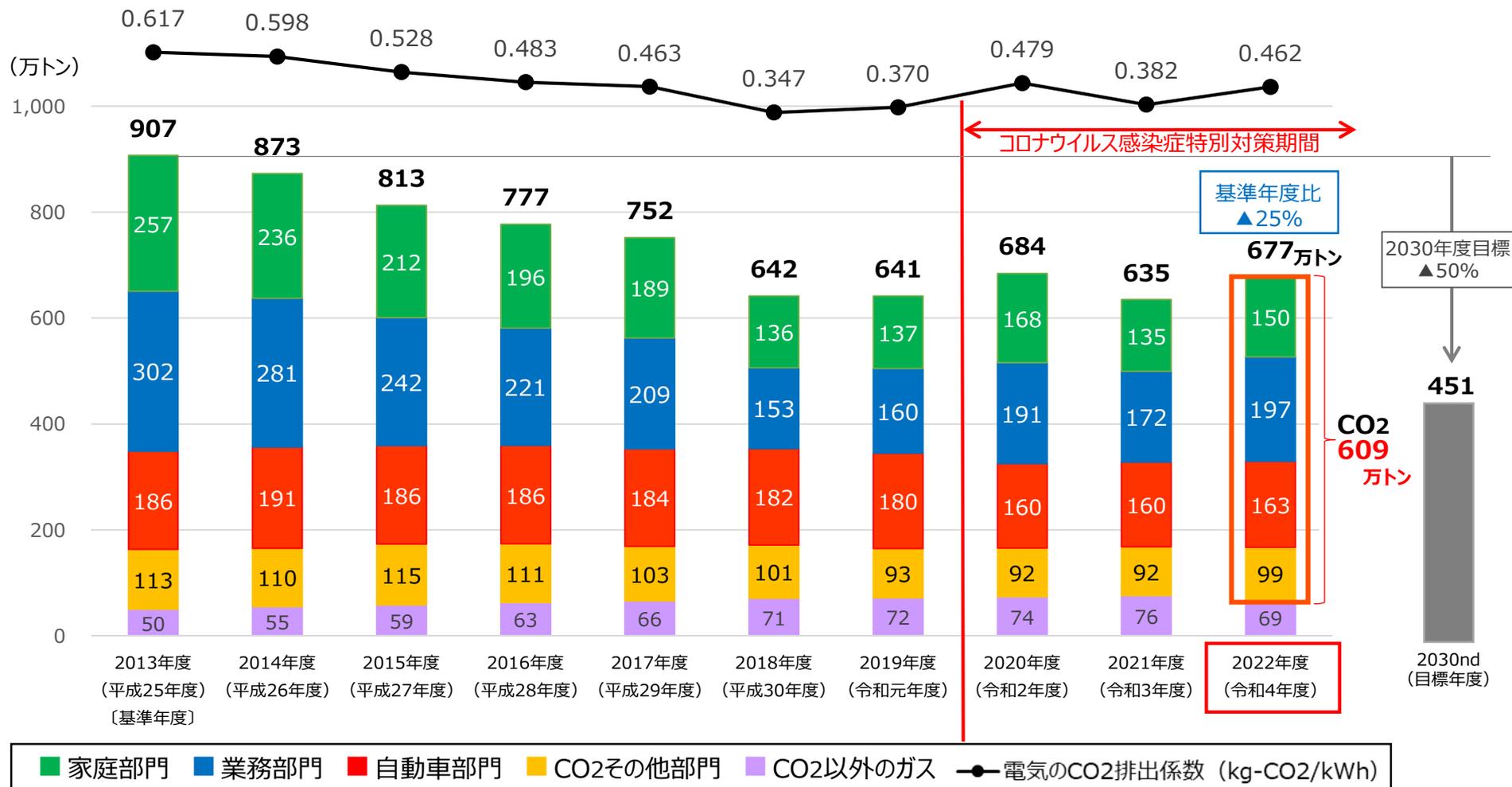


3. 温室効果ガス排出量の推移

(1) 市内の温室効果ガス排出量

◆2022年度の温室効果ガス排出量は677万トンと推計（基準年度（2013年度）比25%減少）



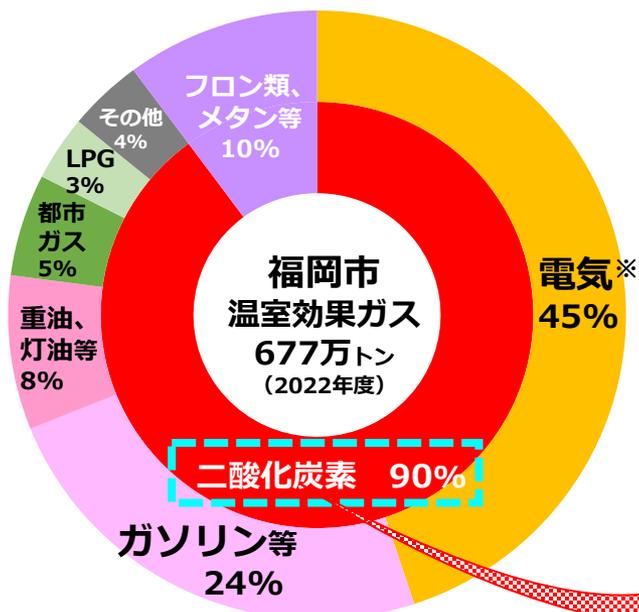
※ 電気の二酸化炭素排出係数は、環境省・経済産業省公表「電気事業者別排出係数(特定排出者の温室効果ガス排出量算定用)」の九州電力(株)の値
 ※ 四捨五入の関係のため、排出量の内訳と総量不一致の場合がある。
 ※ 二酸化炭素その他部門：産業部門（農林水産業、建設鉱業、製造業）、運輸部門（鉄道、船舶）、エネルギー転換部門（熱供給事業）、廃棄物部門

3. 温室効果ガス排出量の推移

(2) 2022年度の温室効果ガス排出量の内訳

- ◆ 温室効果ガス排出量の約5割が電気由来、次に自動車燃料由来が多い。
- ◆ 部門別では、家庭、業務、自動車部門で、二酸化炭素排出量の84%を占める。

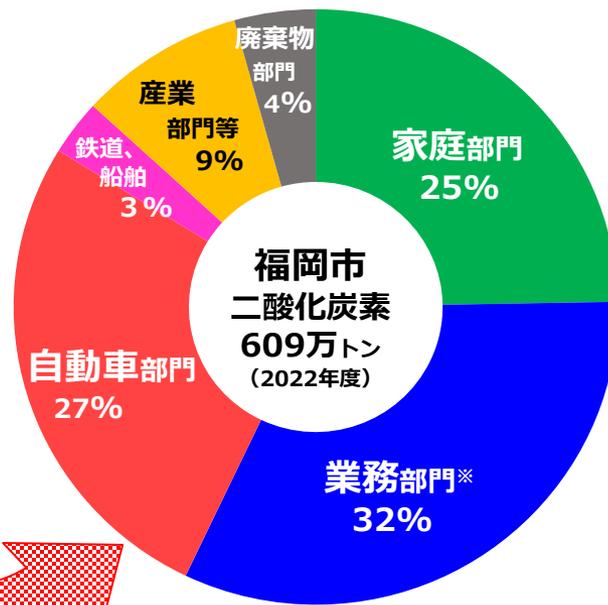
温室効果ガス総排出量（推計）内訳
（エネルギー種別）



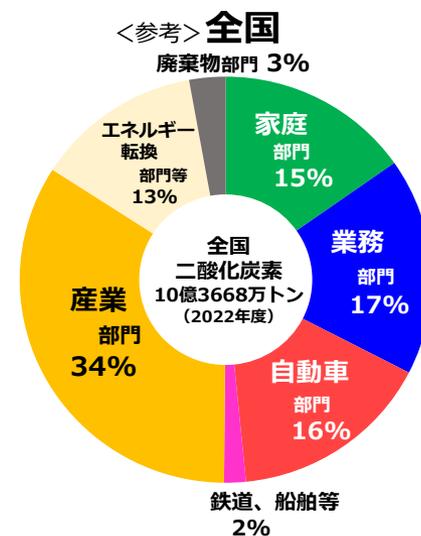
※国のマニュアルに基づき、電気は電気事業者による発電に伴い排出された二酸化炭素が分配されており、需要側の排出として算定している

※ 四捨五入の関係のため、割合の合計が100%を超える

二酸化炭素総排出量（推計）内訳
（部門）



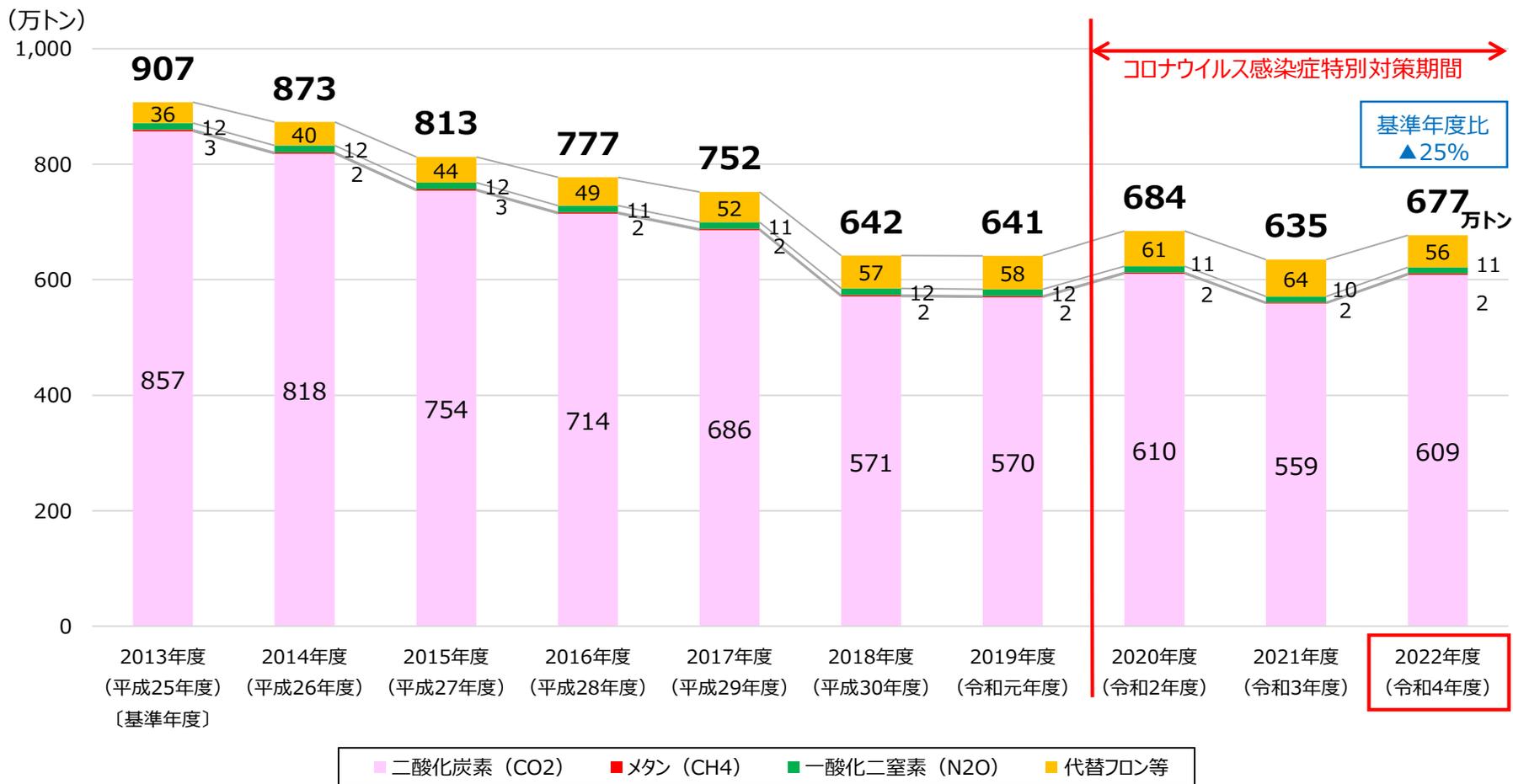
※業務部門：商業、サービス、事業所等



3. 温室効果ガス排出量の推移

(3) 市内の温室効果ガス排出量（ガス別）

- ◆2022年度の温室効果ガス排出量のうち、約90%を二酸化炭素、約8%を代替フロン等が占める。
- ◆2022年度においては、代替フロン（HFCs・ハイドロフルオロカーボン類）の排出量が、2013年度以降初めて減少に転じた（2021年度64万トン⇒2022年度56万トン（8万トン減少））。



※ 四捨五入の関係のため、排出量の内訳と総量が一致しない場合がある。